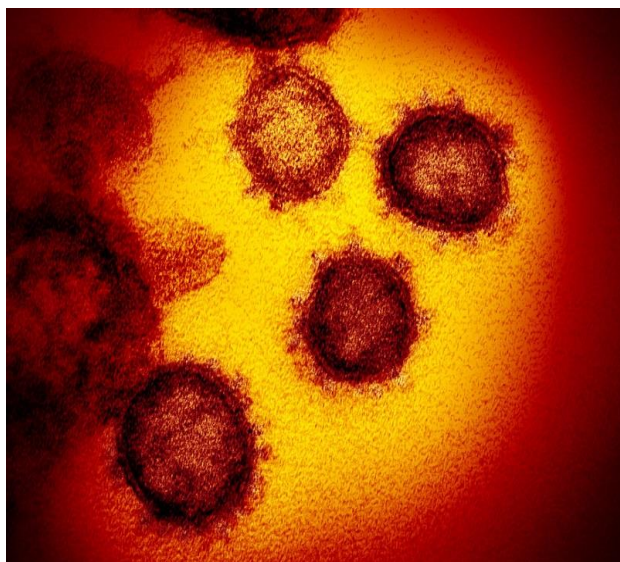


第1号議案 2020年度事業報告について

〔2020年4月1日～2021年3月31日〕

※トピックス



コロナ対策医療支援金

新型コロナウイルスの感染拡大に伴う医療崩壊を防ぐため、「コロナ対策医療支援金」を立ち上げ、5月4日付朝刊から募金を呼びかけた。自治体を通じて、マスクや消毒液、防護服などの医療資材購入費にあてるほか、最前線で未知のウイルスに立ち向かう医療従事者の支援に役立てる。3月末までに1,248件4,451万円が寄せられた。6月30日に第1次贈呈分として大阪府へ500万円、兵庫県250万円、愛知県150万円、京都府100万円、石川県と富

山県に各50万円の合計1,100万円を贈呈。11月18日には第2次分として大阪府へ400万円、愛知県200万円、兵庫県、京都府、石川県、岐阜県、奈良県、広島県に各50万円の合計900万円、3月10日にも第3次分として大阪府500万円、愛知県300万円、兵庫県250万円、京都府150万円、広島県、岐阜県、岡山県、三重県、滋賀県へ各100万円、奈良県、愛媛県に各50万円の合計1,800万円を贈呈した。贈呈総額は3,800万円となった。今後も募金の受け付けを継続する。



九州豪雨災害救援金

停滞する梅雨前線の影響で、熊本県を中心に九州や中部地方などの各地に集中豪雨が襲い、河川の氾濫や土砂崩れなどの甚大な被害が生じた。7月7日付朝刊から「九州豪雨災害救援金」の募集を開始。3月末までに1,187件2,492万円が寄せられた。8月27日に第1次贈呈分として熊本県へ1,500万円、福岡

県と大分県に各100万円の合計1,700万円を贈呈。11月18日には第2次分として熊本県へ300万円、3月12日にも第3次分として熊本県へ137万円を贈呈した。贈呈総額は2,137万円となった。

各公益事業ごとの事業報告詳細

(万円単位で表示しています)

公益事業 1 国内外の福祉に関する事業

(事業種別 3, 4, 6, 7, 11, 12, 15)

「社会福祉のために」「コロナ対策医療支援金に」などと寄せられた一般寄付金は、3月末までに1,526件5,015万円(前年298件518万円)。歳末の「チャリティー名士寄贈書画工芸作品入札会」の売り上げと義援金の合計2,604万円(公益事業3にあたる東日本大震災救援事業分の22万円を差し引く)に加え、同チャリティーの入札もれ等の後日売り上げをあわせると、2,619件7,630万円(前年1,146件3,203万円)となった。また、20年1月の内閣府立ち入り検査で、18年度分より「一般正味財産の部」から「指定正味財産の部」で受け付けるよう指導のあった「小児がん征圧募金」には91件2,807万円(同83件2,835万円)が寄せられた。したがって、総計2,710件1億437万円(同1,229件6,038万円)となり、これらの資金をもとに次の事業を行った。

児童福祉に関する事業

主催事業 (主催公演事業 事業区分17)

◎第29回そよかぜ杯ボウリング大会 (支払負担金より60万円支出→0円)
新型コロナウイルスの感染拡大防止のため中止。

9月19日、大阪市の心斎橋サンボウルで近畿各地の交通遺児をはじめ、病気・災害遺児らとその家族など約100人が交流する予定だった。大阪交通遺児を励ます会と共催。

◎施設児童就職予定者研修会・施設から就職する生徒に祝い金贈呈
(支払負担金より88万円を支出)

大阪府下の児童福祉施設で暮らす高校生らを対象に、社会人としての心構えなどを学ぶ研修会を9月から計11回行い、2月21日に閉講式を開催。高校、短大を卒業して就職する88人(対象者全員)に激励の意味を込めて祝い金を1人1万円ずつ贈呈。大阪児童福祉事業協会アフターケア事業部、大阪府社会福祉協議会と共催。(研修会は1975年～・祝い金贈呈は1962年～)

共催分担金事業 (その他特定団体や弱者への救援事業 事業区分18)

◎ゆうゆう(フレンドシップ)キャンプ (支払負担金より40万円支出→0円)
新型コロナウイルスの感染拡大防止のため中止。

被虐待児童を対象に、共同生活を通じて自立心や社会性を育てることを目的とした1997年からの継続事業。10月17、18日に兵庫県養父市のハチ高原で1泊2日のキャンプ、5月23日と1月30日にも日帰りキャンプを実施予定だった。

大阪府青少年活動財団と共催。

◎小学6年生ハチ北林間ホーム→（代替行事「生駒山ハイキング」）

（支払負担金より10万円支出→3万円）

8月7～9日、大阪市管轄の児童福祉施設で暮らす小学6年生ら40人を、兵庫県香美町のハチ北高原に招待する予定だったが、新型コロナウイルスの影響で内容を変更。規模縮小のうえ安全対策を徹底し、10月18日、日帰りの生駒山ハイキングを実施。大阪市、大阪市児童福祉施設連盟と共催。開催経費3万円を分担助成した。

◎第52回新春こども大会

（支払負担金より10万円支出→0円）

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため中止。

1月24日、大阪市が管轄する児童福祉施設の子どもたちが、冬休みに練習した踊りや演劇などを大阪市の市立こども文化センターで発表する予定だった。大阪市、大阪市児童福祉施設連盟と共催。

◎第35回駅伝・ロードレース大会

（支払負担金より5万円支出→0円）

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため中止。

2月6日、大阪市が管轄する児童福祉施設の小・中学生約250人が参加する駅伝・ロードレース大会を、大阪府吹田市の弘済小中学校グラウンドにて開催する予定だった。大阪市、大阪市児童福祉施設連盟と共催。

（キャンペーン事業 事業区分8）

◎母の日・父の日募金キャンペーン

新型コロナウイルスの感染拡大のため、取材ができず中止。

「プレゼントをあげる親がもういない」との声をきっかけに、親を亡くしたり、一緒に暮らせない子どもたちへの支援にかえる本キャンペーンは、5月の「母の日」と6月の「父の日」にあわせ、朝刊で募金を呼びかける予定だった。

児童福祉特定団体助成・支援事業（文末のカッコ内は：支払助成金または経費）

*琵琶湖セツルの家＝7月1日～8月31日、滋賀県大津市の琵琶湖畔に宿泊施設を開設、新型コロナウイルスの感染予防対策を施し、保育所、児童館、子どもの家などの利用者に開放。大阪市地域福祉施設協議会の主催。本団が単独で助成後援した（8万円）。

*母と子の一泊旅行＝新型コロナウイルスの感染拡大防止のため中止。
7月11～12日、大阪府下の母子寮の親子40人を、和歌山・白浜温泉と白浜アドベンチャーワールドへのバス旅行に招待する予定だった。大阪府民間母子生活支援施設連絡協議会の主催。本団は単独で助成後援している（28万円→0円）。

*「施設生活と発達障害の微妙な関係」講演会＝新型コロナウイルスの感染拡大

防止のため中止。9月頃、発達に課題を抱える子どもへの具体的な関わり方について、施設職員やケースワーカーらを対象に、専門家が実践的なアドバイスを行う講演会を開催する予定だった。大阪児童福祉事業協会アフターケア事業部の主催。本団は単独で助成後援している（50万円→0円）。

*** 自立支援プログラム いずみサロン**＝12月5日～2月13日、名古屋市内の児童養護施設で暮らす中学3年生から高校3年生までを対象に、調理実習や職業体験を通じて自立と就労についての研修を4回行う予定だったが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため事業規模を縮小して2回実施。昭徳会「就労支援事業サポートいずみ」の主催。本団が助成後援した（39万円→11万円）。

*** 里親ふれあいキャンプ**＝8月18～20日、小学1年生以上の里子を対象としたキャンプを神戸市の六甲山YMCAで開催する予定だった。毎日新聞社と共に愛の手運動（里親さがし運動）を展開する家庭養護促進協会が主催。本団が単独で助成後援している（18万円→0円）。

*** 第48回北摂子ども大会**＝新型コロナウイルスの感染拡大防止のため中止。12月6日、北摂地域の児童養護施設などに暮らす子どもたちのスポーツ大会を、大阪府茨木市中央公園（南）グラウンドで開催する予定だった。北摂児童施設連盟の主催。本団が単独で助成後援している（10万円→0円）。

*** 児童福祉施設に絵を贈る運動**＝12月末、子どもたちの情操教育の一環として「チャリティー名士寄贈書画工芸作品入札会」に寄せられた作品から絵画6点を愛知・岐阜・三重県内の児童養護施設に贈った。

医療福祉に関する事業

（キャンペーン、〇〇月間事業 事業区分8）

◎小児がん征圧キャンペーン（支払助成金より840万円を支出）

1996年から毎日新聞社と展開している「生きる－小児がん征圧キャンペーン」と連動した「小児がん征圧募金」は、大口寄付者からの1件2,500万円を含む91件2,807万円（前年83件2,835万円）が寄せられた。3月30日に贈呈式を開き、次の14団体に各60万円ずつ計840万円を贈呈した。

1. チャイルド・ケモ・ハウス（神戸市）
2. 日本クリニックラウン協会（大阪市）
3. 近畿小児血液・がん研究会（大阪府吹田市）
4. 京都大学医学部附属病院小児科ボランティアグループ
「にこにこトマト」（京都市）
5. 京都ファミリーハウス（京都市）
6. あいち骨髄バンクを支援する会（名古屋市）

7. 守口ぶどうのいえ（大阪府守口市）
8. TSURUMI こどもホスピス（大阪市）
9. JHDAC（Japan Hair Donation&Charity）（大阪市）
10. しぶたね（大阪府大東市）
11. ぷくぷくばるーん（名古屋市）
12. 名古屋小児がん基金（同）
13. 三重大学病院小児科父母の会・ひだまり（三重県鈴鹿市）
14. 京都・がんと生殖医療ネットワーク（京都市）

（その他特定団体や弱者への救援事業 事業区分 18）

◎コロナ対策医療支援金（支払助成金より 3,800 万円を支出）
 ※トピックスで紹介。3 ページをご参照ください。

高齢者福祉に関する事業

（助成（応募型）事業 事業区分 13）

◎配食サービス車贈呈事業（支払助成金より 181 万円を支出）

3 月 14 日から 5 月 15 日までの期間、毎日新聞紙上などで公募。7 月 27 日に学識経験者などからなる選考委員会にて、応募 10 団体の中から岡山県吉備中央町の社会福祉法人まこと会「特別養護老人ホームかもがわ荘」が選ばれ、9 月 25 日に同ホームで贈呈式を開いた。（1999 年～）

心身障害者福祉に関する事業

（その他特定団体や弱者への救援事業 事業区分 18）

共催分担金事業

◎第 33 回専門点訳・音訳講習会（支払負担金より 100 万円を支出）

専門書の点訳、音訳の技術を修得するための講習会で、受講後は点訳・音訳ボランティアとして活躍してもらおう。日本ライトハウス情報文化センターと共催。

- ・専門音訳講習会「音声解説 基礎・応用コース」
9 月 9 日～10 月 7 日 全 6 回、18 人
- ・専門点訳講習会「古文コース」
9 月 16 日～11 月 25 日 全 6 回、19 人
- ・専門音訳講習会「小説の読み方コース」
11 月 5 日、18 日 全 1 回を 2 回、12 人、12 人計 24 人
- ・専門点訳講習会「点字楽譜コース」
10 月 8 日～3 月 25 日 全 8 回、29 人
- ・専門点訳講習会「UEB レベルアップコース」

2月10日、24日 全2回、69人

- ・専門点訳講習会「表点訳と点字の書式」

3月11日、18日 全2回、19人

*新型コロナウイルスの影響で延期になっていた2019年度(第32回)分を下記にて開催

- ・専門点訳講習会「理科、算数・数学コース」

8月20日～9月17日 全4回、23人

◎第23回視覚障害者ICT・サポートボランティア講習会

(支払負担金より30万円を支出)

視覚障害者の情報環境を支えるICT(インフォメーション・コミュニケーション・テクノロジー)機器を利用する視覚障害者に、操作方法などを教える指導者養成のための講習会。受講者を公募しiPhoneの機能などについて学ぶ。日本ライトハウス情報文化センターと共催。

- ・①8月1日 開講式、Zoomミーティング説明会(パソコン編)、10人
- ・②8月21日 Zoomミーティング説明会(iPhone編)、6人
- ・③8月29日 Zoomミーティング説明会パソコン、ホスト編、10人
- ・④9月19日 Zoomミーティング交流会、9人
- ・⑤9月26日 Windows Media Player講習会、7人
iPhone応用講習会、13人
- ・⑥10月10日 iPhone基本操作編、20人
- ・⑦10月31日 iPhone応用講習会、chromeでAmazonネットショッピング講習会、11人
- ・⑧11月28日 プレストークPTR3講習会、サピエ活用講習会10人
- ・⑨3月13日 iPhoneで音楽や動画を楽しもう!講習会、iPhoneカメラ機能関連活用講習会、12人

◎「声の点字毎日」発行 (支払負担金より10万円支出→5万円)

全国の国立ハンセン病療養所8カ所で生活している視覚も皮膚感覚も失った人たちに点字毎日の「声の点字毎日デイジー版(録音図書)」(月2回発行)を寄贈する事業。費用の一部を、東京・西部社会事業団と共に5万円ずつ分担した。

(表彰、コンクール事業 事業区分14)

◎毎日社会福祉顕彰 (支払負担金より115万円を支出)

毎日新聞大阪社会事業団創立60周年記念事業として始まり、50回目を迎えた。社会福祉の分野で献身的な活動をしている個人、団体を表彰している。毎日新聞紙上などで公募し5月末に応募を締め切り、厚生労働省や大学教授らからなる審査委員会を経て、推薦された24件の中から次の1個人・2団体が選ばれ、賞牌と賞金(1件につき100万円)を贈呈した。新型コロナウイルス感染拡大防止のため合同での記念式典は行わず、個別に贈呈式を開いた。

◇竹内昌彦さん＝認定 NPO 法人「ヒカリカナタ基金」理事長（岡山市）

幼少期に網膜剥離で失明。岡山県立盲学校の教員時代から、子どもの頃にいじめを受けた経験をもとに全国各地で講演、障害者差別の解消や命の大切さを訴えてきた。講演や原稿執筆の謝礼金でモンゴルに盲学校、キルギスに視覚障害者の生活訓練施設を建設。2017年には途上国の子どもたちの眼病治療の支援のために、ヒカリカナタ基金を設立した。

◇社会福祉法人「野の花学園」＝福田量理事長（福岡市）

1959年に障害児がいる母親5人が福岡市に訓練施設「野の花学園」を設立。65年に社会福祉法人になった後、入所施設「第一野の花学園」を開設し、知的障害者支援の先駆的役割を果たしてきた。「ひとりひとりの豊かな生活を求めて」を理念に活動の幅を広げ、就労支援施設や食品加工、喫茶店事業など福岡県内に25施設を運営している。

◇認定 NPO 法人大阪精神医療人権センター＝位田浩・大槻和夫代表理事（大阪市）

栃木県の精神科病院で、職員の暴行による患者の死亡が発覚した事件を契機に設立し、35年を迎える。閉鎖空間での人権侵害を防ごうと、大阪府内の病院を繰り返し訪問。入院患者の声を聞き取り、病院と交渉を重ねて処遇の改善と権利の向上を実現している。

◎第89回全国盲学校弁論大会（支払負担金より10万円支出→0円）

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため中止。

10月に岐阜市で開催予定だった。毎日新聞社点字毎日、全国盲学校長会と共催。本団は2002年度から共催に加わる。費用分担している大阪・東京社会事業団の各20万円と西部社会事業団の10万円の支出がなくなった。（1928年～）

心身障害者特定団体助成・後援事業（文末のカッコ内は：支払助成金）

*第54回全大阪ろう社会人軟式野球秋季大会＝7月7、14、28日、8月4日、大阪府久宝寺緑地公園軟式野球場などで開催。本団が助成後援した。（レプリカ代1万円）

*45周年記念わたぼうし音楽祭＝8月2日、新型コロナウイルスの感染拡大のため、奈良県文化会館で開催する予定を、インターネット LIVE 動画配信に変更して実施。わたぼうし大賞には東京都町田市の太田純平さん(29)作詩、西東京市の古賀聡子さん(50)作曲の「やさしい時間」が選ばれた。奈良たんぼぼの会主催、毎日新聞社と共に本団も助成後援している。各事業団の分担は大阪20万円・東京10万円・西部5万円。

*第48回愛知心理療養キャンプ＝新型コロナウイルスの感染拡大防止のため中止。8月に愛知県蒲郡市の蒲郡ホテル別館で開催予定だった。本団が助成、後援している（3万円→0円）。

その他の社会福祉事業団体の事業助成

(助成(応募型)事業 事業区分13)

◎公募福祉助成金 (支払助成金より90万円を支出)

国内外の地域で福祉活動に取り組む団体や先駆的事业でどこからも援助がない団体などへ、一般公募による事業助成を行う。

歳末たすけあい運動と連動して、11月14日から12月18日の期間、応募を受け付け、1月29日に選考委員会を開き、申請のあった23団体から下記6団体に総額90万円を贈呈した。

1. アジア子ども基金(神戸市)	15万円
2. withふくい(福井県若狭町)	25万円
3. 絵本は道しるべの会(兵庫県西宮市)	20万円
4. 聴覚・サポートかけはし(岡山県笠岡市)	10万円
5. びわフリ～びわ湖フリーわいわい(滋賀県大津市)	10万円
6. 松山さかのうえ日本語学校(愛媛県松山市)	10万円

*名古屋市視覚障害者協会の機関紙「のぞみ」第41号発行

(支払助成金より3万円を支出)

1月に発行した上記製作費用を助成した。

その他目的を達成するために必要な事業

(キャンペーン、〇〇月間事業 事業区分8)

◎歳末たすけあい運動

11月14日から12月25日にかけて「義援金」募集や「チャリティー名士寄贈書画工芸作品入札会」を実施した。

*義援金募集

社告掲載やこれまでの寄付者などへのダイレクトメール送付により、義援金を募った。義援金は1,093件1,353万円で前年(848件915万円)比438万円の増。

*「チャリティー名士寄贈書画工芸作品入札会」

12月11日～13日、毎日新聞地下1Fオーバルホールで開催。売り上げは1,273万円(公益事業3の東日本大震災救援事業分の22万円を含む)で、前年比209万円の減となった。会場内の「密」を避けるため、入場制限をはじめ、検温・手の消毒・マスク着用を徹底のうえ、従来は会期を通じて行っていた即売会を中止し、入札もれの作品のみ、最終日に即売する方式で実施した。

本収益から歳末慰問金として70万円を次の7団体に配分した。

(支払助成金より 70 万円を支出)

1. 大阪子どもの貧困アクショングループ CPAO	10 万円
2. 大阪更生保護施設連盟	5 万円
3. 大阪家庭少年友の会	5 万円
4. こどもの里	5 万円
5. 名張養護学園 (児童養護施設・三重県名張市)	15 万円
6. 誠心寮 (同・岐阜県瑞穂市)	15 万円
7. 子どもの家ともいき (同・愛知県一宮市)	15 万円

* 「第 53 回歳末たすけあいチャリティーチャレンジ棋力認定戦」

(支払助成金 3 万円、材料費として 3 万円を支出→0 円)

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため中止。

チャレンジ棋力認定戦を開き、その収益などをもとに囲碁セットを製作。漫画「ヒカルの碁」全巻と共に児童福祉施設に贈呈予定だった。

スポーツニッポン新聞社、日本棋院が主催。本団の単独後援。

◎指定寄付金事業

(支払助成金より 9 万円を支出)

贈呈先を指定されてきた寄付金。「愛の手運動に」「あしなが育英会に」などと 9 件 9 万円が届いた。

◎機関紙「そよかぜ」第 53 号発行

(印刷製本費より 17 万円を支出)

6 月に 1 万部発行し、寄付者をはじめ、関係機関・団体に送付した。

その他の名義後援事業

とき	案件名	ところ
4月5、19、26日	「第 57 回全大阪ろう社会人軟式野球 春季大会」の名義後援について (新型コロナウイルスの影響で中止)	大阪府宮久宝寺緑地軟式野球場、寝屋川公園第 1 野球場、大阪市長居公園野球場
4月12日	「第 40 回愛知県聴覚障害者体育大会」の名義後援について (新型コロナウイルスの影響で中止)	日進市スポーツセンター、同市総合運動公園など。
4月16～18日	「バリアフリー2020」-第 26 回 高齢者・障がい者の快適な生活を提案する総合福祉展-の名義後援について (新型コロナウイルスの影響で中止)	インテックス大阪 (大阪市住之江区)
4月1日～22年3月	関西ののちの電話 第 56 期「電話相談ボランティア養成講座」の名義後援につて	大阪市淀川区十三元今里 3-1-72 社会福祉法人博愛社5階会議室など
4月22日～11月19日	「第 17 回名古屋市障害者スポーツ大会」の名義後援について (新型コロナウイルスの影響で中止)	名古屋市のパロマ瑞穂スタジアムなど

4月25日、5月9、16、23、24日	「令和2年度愛知県障害者スポーツ大会」の名義後援について（新型コロナウイルスの影響で中止）	名古屋市千種区の星ヶ丘ボウル、豊田市運動公園陸上競技場など
5月～11月	「第57回点字毎日文化賞」の名義後援について	毎日新聞東京本社（表彰式）
5月14～16日	「第23回国際福祉健康産業展～ウェルフェア2020～」の名義後援について（新型コロナウイルスの影響で中止）	ポートメッセなごや（名古屋市国際展示場：名古屋市）
5月31日	「第27回共生・共走リレーマラソン」の名義後援について（新型コロナウイルスの影響で中止）	花博記念公園・鶴見緑地内（大阪市鶴見区）
6月11～14日	「第68回全国ろうあ者大会」の名義後援について（新型コロナウイルスの影響で中止）	名古屋国際会議場（名古屋市）
6月14日	「第38回日本ライトハウスチャリティコンサート」の名義後援について（新型コロナウイルスの影響で中止）	ザ・シンフォニーホール（大阪市北区）
8月4～9日	「第41回子どもたちの讃歌展」の名義後援について（新型コロナウイルスの影響で中止）	大阪市立美術館 地下展示室1・2
9月5日～21年2月21日	2020年度「児童養護施設等入所児童及び里親委託児童に対する自立生活技術講習会（ソーシャル・スキル・トレーニング）」事業の名義後援について	シェラトン都ホテル大阪（大阪市天王寺区）
11月17日	「第68回愛知県社会福祉大会」の名義後援について	ドルフィンズアリーナ（愛知県体育館：名古屋市中区二の丸1番1号）
2月2～7日（審査会は2月1日）	「第55回名古屋市障害者作品展示会」の名義後援について	名古屋市博物館ギャラリー第1、2、3、8室（名古屋市瑞穂区瑞穂通1）
3月13日	「盲導犬育成事業50周年記念フェスタ」の名義後援について	シェラトン都ホテル大阪 浪速の間（大阪市天王寺区上本町6）
3月13、14、20、21日	令和2年度 合同求人説明会「福祉の就職総合フェア SPRING in OSAKA」の名義後援について	オンラインライブセミナー形式（ZOOMミーティング）

公益事業 2 シンシア基金事業 (事業種別 3)

(キャンペーン、〇〇月間事業 事業区分 8)

◎シンシア基金 (支払助成金より 16 万円を支出)

身体障害者をサポートする介助犬への理解を深め、育成や研究活動に役立てるため、1998 年から阪神支局が始めたキャンペーンと連動して募金を呼びかけた。

3 月末までに寄せられた「シンシア基金」は、23 件 38 万円 (前年 43 件 224 万円) となった。

身体障害者補助犬 (盲導犬・介助犬・聴導犬) の社会的認知を促進するため、毎日新聞社や兵庫県宝塚市などで行く実行委員会が主催する「第 22 回身体障害者補助犬シンポジウム～知ってよ！介助犬～」(宝塚市立中央図書館で 11 月 28 日に収録。字幕や手話通訳をつける編集作業を経て、宝塚市の公式 YouTube チャンネルで動画配信) の経費として 16 万円を支出した。

(助成 (応募型) 事業 事業区分 13)

◎シンシア基金公募助成 (支払助成金より 30 万円を支出)

身体障害者補助犬の育成や支援に関わる団体などに公募助成する。歳末たすけあい運動と連動して、11 月 14 日から 12 月 18 日の期間、応募を受け付け、1 月 29 日に選考委員会を開き、下記団体に 30 万円を贈呈した。

1. 兵庫介助犬協会 (兵庫県西宮市) 30 万円

その他の名義後援事業

◇「介助犬フェスタ 2020」を名義後援 = 5 月 23 日、愛知県長久手市の愛・地球博記念公園内「地球市民センター」での開催予定を、新型コロナウイルスの感染拡大のため、インターネット LIVE 配信に変更して実施。日本介助犬協会の主催。

公益事業 3 災害救助に関する事業 (事業種別 3)

◎「災害救援基金事業」

*九州豪雨災害救援金 (支払助成金より 2,137 万円を支出)

※トピックスで紹介。3 ページをご参照ください。

◎東日本大震災救援事業

*東日本大震災救援金 (支払助成金より 61 万円を支出)

3 月末までに 32 件 354 万円 (前年 39 件 49 万円) が寄せられた (*贈呈総額は

7,939件4億8,495万円)。

3月24日に第19次分として、前年度の繰越額とあわせて61万円を、日本赤十字社に贈呈した。贈呈総額は4億7,089万円となる。

*** 毎日希望奨学金 (支払助成金より5,016万円を支出)**

東日本大震災で保護者を亡くした震災遺児の学業を支える「毎日希望奨学金」(毎日新聞大阪・東京・西部社会事業団、毎日新聞社で創設)は、10年目を迎え、奨学金への募金を毎日新聞紙上などで呼びかけた。3月末までに「チャリティー名士寄贈書画工芸作品入札会」での奨学金売り上げ分22万円を含め、850件2,120万円(前年674件1,435万円)が寄せられた。

(2011年度からの合計17,468件10億5,679万円：東京・西部事業団分含む)

20年3月9日付朝刊で「奨学生募集」の社告を掲載すると共に被災地の高校や大学などに直接照会をかけた。50人の募集枠に対して70人が応募。5月25日、有識者らによる選考委員会が開かれ、全会一致で70人に支給が決定した。奨学生数は継続者とあわせて209人(高校生79人、短大・大学・大学院生112人、専修学校生18人)になった。

・4月25日、139人(4、5、6月分)	834万円
・6月25日、68人(4、5、6月分)	408万円
・7月25日、207人(7、8、9月分)	1,242万円
・7月25日、2人(*4~9月分)	24万円
・10月25日、209人(10、11、12月分)	1,254万円
・1月25日、209人(1、2、3月分)	1,254万円
合計	5,016万円を支給

公益事業4 国際協力に関する事業(事業種別15.16)

(キャンペーン、〇〇月間事業 事業区分8)

◎世界子ども救援キャンペーン (委託費より112万円を支出→0円)

国際児童年(1979年)に毎日新聞社との共催で「飢餓・貧困・難民救済キャンペーン」としてスタート。記者を海外に派遣し、帰国後の紙面展開で苦境にある子どもたちの現状を克明に報じると共に救援を呼びかける。

新型コロナウイルスの世界的蔓延のため、例年同様の取材活動ができず、オンラインによる現地取材などをもとに、コロナ禍でますます厳しい状況におかれているスラム街や難民キャンプで暮らす子どもたちの窮状を訴え、「小さな声~コロナの陰で」のタイトルで2月10日付朝刊から5回の連載を行い、救援金を募集した。

*** 世界子ども救援金**

読者などからの「世界子ども救援金」は、3月末までに342件534万円(前年397件708万円)が寄せられた。

広く一般から申請を受け付ける「公募助成」と、今回のキャンペーンで紙面掲載された地域や団体を対象とした「取材地助成」、これまでの取材地で引き続き援助が必要と判断された「継続助成」の3つの支援を行う。いずれも活動内容や実績などから選考している。

(助成(応募型)事業 事業区分13)

◎「公募助成」 (4団体へ支払助成金より80万円を支出)

海外での支援活動を行う民間団体やそれに準じる団体などからの応募をもとに、1月29日の選考委員会にて決定。

1. マナムニ母子寮関西連絡所	20万円
2. ネパール震災プリタム実行委員会	20万円
3. テラ・ルネッサンス	30万円
4. ガリレオクラブインターナショナル	10万円

◎「取材地助成」 (3団体へ支払助成金より110万円を支出)

1. アジア協会アジア友の会	30万円
2. アクセス(共生社会をめざす地球市民の会)	30万円
3. 難民を助ける会(AAR Japan)	50万円

◎「継続助成」 (6団体へ支払助成金より190万円を支出)

1. 日本ユニセフ協会	30万円
2. JIM-NET(日本イラク医療支援ネットワーク)	20万円
3. 高遠菜穂子(ピース・セル・プロジェクト)	20万円
4. 日本国際ボランティアセンター(JVC)	20万円
5. 国連UNHCR協会	40万円
6. 国境なき医師団日本	60万円

2020(令和2)年度事業報告には「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

2021(令和3)年5月
公益財団法人 毎日新聞大阪社会事業団

以上